

環境報告書 まち・住まいと環境 2020 【ダイジェスト】

環境報告書 まち・住まいと環境 2020 【ダイジェスト】

2020年 7月発行



「環境報告書 まち・住まいと環境 2020」

環境報告書(本編)は、WEBからダウンロードが可能です。

<https://www.ur-net.go.jp/e-report/>



独立行政法人都市再生機構
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町 6-50-1 横浜アイランドタワー
TEL. 045-650-0111
<https://www.ur-net.go.jp/>



URは、環境に配慮した取り組みをさまざまな業務フィールドで進めています

URは、あらゆる分野において、幅広い関係者とのパートナーシップを充実・強化して、持続可能でレジリエンスの高い循環共生型のまちづくりをめざしています。

3 すべての人に健康と福祉を

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナーシップで目標を達成しよう

社会貢献活動
地域の方々のコミュニティ醸成

資源循環
リノベーションによる既存建物の有効活用

3 すべての人に健康と福祉を

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を



ステークホルダーとの対話

- **UR 賃貸住宅居住者**
地域との連携や見守りの場を提供するコミュニティカフェの開催
- **地域社会**
防災教育活動

▲奈良北団地(横浜市)の様子

▲防災活動実施団体の表彰

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

13 気候変動に具体的な対策を

地球温暖化対策
緑化による壁面温度の上昇抑制・CO₂の吸収

自然環境
みどりと身近にふれあえる公園整備

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

15 陸の豊かさも守ろう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。UR都市機構では様々な事業の推進により、SDGsにも貢献していきます。

自然環境

多様な機能を有する自然環境と調和したまちづくりを進めます。

CO・MO・RE YOTSUYA (四谷駅前地区第一種市街地再開発事業) におけるグリーンインフラ

CO・MO・RE 「木漏れ日」+「COMMON」を意味する造語

2020年1月に竣工した再開発ビル「コモレ四谷」(東京都新宿区)では、みどりを意識したまちづくりを進めました。

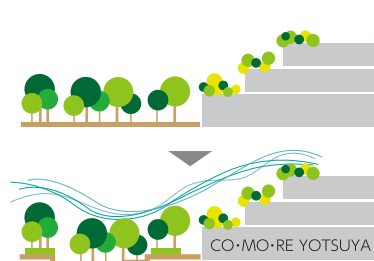


グリーンインフラとは

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組(国土交通省「グリーンインフラ推進戦略」より)

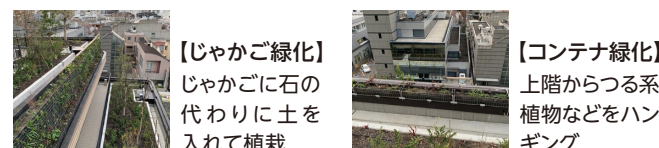
みどりのネットワーク

本地区周辺には外濠や新宿御苑などまとまったみどりが点在しています。それらと平面的につながるだけでなく、建物で造り上げた地形に植栽し、立体的なみどりのつながりを生み出すことで、地上部と建物が一体となったダイナミックなみどりのネットワークを構築しました。



自然環境と調和する空間形成

隣接する外濠のみどりと立体的な連続性を実現するため、約2,200㎡の多段状の屋上緑化を実施しました。各階に平面的な植栽帯を設けるだけでなく、立体的なみどりのつながりをつくりオフィスや周辺に一体的な自然環境を提供します。



歴史等を感じられる水とみどり

四谷の歩んだ歴史を活かし、かつてこの地を流れていた玉川上水の記憶を継承する水景を整備しました。また、従前の四谷第三小学校に植えられていた高速コヒガンザクラなど、地域の方々に愛されていた樹木を接ぎ木などにより、再びこの地に移植しました。



生物多様性の向上

昆虫や鳥の食餌木となるクヌギ、コナラ、ムクノキなどの落葉樹を多く取り入れました。またじゃかごに碎石を詰めた土留め壁や粗朶柵、埋蔵文化財調査で発掘された間孔石を再利用した石積みなどの多孔質な空間を創出することで、生物生息空間を確保しました。屋上緑化の植栽帯内には、鳥が水浴びできるバードバスもあります。



UR都市機構は、重要な環境課題への対応

(「地球温暖化対策」「資源循環」「自然環境」)を中心に、環境活動を実施しています。さらに、様々なステークホルダーと連携しながら、社会貢献活動を進めています。



URフォト&スケッチ展応募作品

地球温暖化対策

まちや住まいのエネルギー消費の低減、環境負荷の少ない新しいエネルギーの活用を進めます。



UR賃貸住宅では、環境負荷の少ないLED照明を積極的に導入

主な環境の活動実績 (2019年度)



UR賃貸住宅では、環境負荷の少ないLED照明を積極的に導入

資源循環

まちや住まいの計画、設計、建設、居住、改修、解体の各段階で、資源の有効利用と廃棄物の削減を進めます。



住戸改修時に発生した廃材を利用して作成した「団地パズル」

既存の団地建物をリノベーションし、廃棄物の発生を抑制

社会貢献活動

ステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを行うことで、真に求められるまちや住まいのあり方を模索し、環境にやさしい持続的発展が可能な都市への再生を進めます。

地域・UR都市機構・行政の連携による斜面林活用

香里団地E地区(大阪府枚方市)に位置する緑地(斜面林)では、市民団体、枚方市、UR都市機構などが連携して整備しながら、子どもたちの冒険心や自主性、社会性を育むプレーパーク(冒険遊び場)活動を行うことで、緑地の環境保全や野外教育の担い手となれる人材育成を実施しています。里山の保全とプレーパークを両立させており、多様な人が集う場所に育てています。今後、地域コミュニティの活性化や地域の子育て環境の充実につながる事が期待されます。



石巻市新門脇地区における地域コミュニティと協働した復興まちづくり



東日本大震災で被害を受けた新門脇地区(宮城県石巻市)では、地権者の意向を反映しながら震災復興事業を進め、かつての歴史ある門脇の魅力を創出しました。また、地元中学生のワークショップによる公園づくりや、災害公営住宅でのコミュニティ形成やEVカーシェアリングの導入などを実施しました。